

〔整形外科〕

研修の特徴と内容

【特徴】

整形外科は小児から高齢者における、外傷、慢性障害、スポーツ障害など Quality of life にかかわる幅広い分野を対象とするもので、内科と同様にプライマリケアの最も基本となる臨床領域であり、特に General Physician を目指す臨床研修医には必須の研修必要項目と考える。四肢運動器の外傷（特に骨折、捻挫、靭帯損傷、骨粗鬆症に伴う骨折）や慢性疾患の診断、処置、治療等他科では経験できない症例を研修することができる。診療領域が多岐にわたるため上肢、下肢、脊椎、腫瘍と各グループをそれぞれローテーションして研修することにより幅広い専門知識を身につけることができる。また当院の特徴であるスポーツ整形外科領域においては各種スポーツのトップアスリートのスポーツ障害の治療から復帰までのリハビリテーションについて経験することができる。実際の診療の場ではマンツーマンで参加し、診断、処置、治療、手術に実り多い研修ができる。

【内容】

① 一般目標（G I O）

整形外科の基礎的な知識と技術を習得し、診断、治療における問題解決の能力と臨床的な技能、態度を身につける事を目標とする。さらに、交通事故やスポーツ外傷に対して救急診療や処置が適切に行えるようになることを目指す。

② 行動目標（S B O）

- (1) 医師としての基本姿勢の取得
- (2) 整形外科の基本的診察法の習得
- (3) 整形外科の基本的検査法の手技と読影の習得
- (4) 整形外科の基本的疾患の理解（病態、治療法）
- (5) 整形外科の外科的手術手技の習得
- (6) 整形外科領域の基礎研究の理解

行動目標（S B O）

1. 外来診療

- 1) 鑑別診断を念頭においた適切な問診を行い、診療録に記載する。
- 2) X線検査などの画像検査の指示を適切に行う。
- 3) 指導医の診察、患者さんへの説明、実際の治療を見学する。
- 4) 外来での簡単な創処置や、骨折に対するギプスやシーネ固定の手技を学ぶ。

2. 入院診療

- 1) 指導医とともに主治医として患者を受け持つ。
- 2) 術前評価、手術計画、インフォームドコンセントをどのようにして行うか学ぶ。
- 3) 術後管理や術後のリハビリテーションの実際を学ぶ。

3. 手術

- 1) 手術助手として手術に立ち会う。
- 2) 糸結び、創縫合、簡単な腱縫合や骨接合などの手技を学ぶ。

4. 救急診療

- 1) 救急患者が来院した場合は指導医と実際の診療にあたる。

2) 創処置、骨折、脱臼の整復、固定などの初期治療を体験する。

3) 外傷に対する decision making を行う能力を養う。

5. カンファレンス

1) 術前・術後カンファレンスに参加して症例のプレゼンテーションを行う。

2) 退院サマリー・種々の証明書の記載の方法について学ぶ。

③ 研修内容（方略）（LS）

1. 研修医のみ対象のカンファレンス

毎週1回、研修医のみを対象に勉強会を実施している。内容については、整形外科疾患全体（慢性疾患・外傷・スポーツ外傷）などの診断および治療についての知識の整理を行うために施行している。

2. 阪神地区カンファレンス

2か月に一度の頻度で、近隣の関連病院と症例の問題点についてカンファレンスを行っている。

3. それぞれの専門分野別のカンファレンス

脊椎外科・上肢・下肢の専門分野に分かれて、研修医が理解しておくべき事項について学ぶ。

④ 教育に関する行事

月	8:15～9:00	術前症例カンファレンス
火	8:00～9:00	術後症例カンファレンス
	17:00～18:00	グループカンファレンス
木	8:15～9:00	術前症例カンファレンス
	14:00～15:30	関節造影、脊椎造影の実際と診断法の演習
	17:00～18:00	グループカンファレンス
金	8:00～8:45	教授病棟回診

⑤ 研修評価（EV）

1. 自己評価

EPOCを入力する。

2. 指導医による評価

EPOCへの入力状況、診療チームでの勤務状況の評価する。

3. 看護師による評価

EPOCを用いて、看護師からの評価を行う。

指導医等

（脊椎）

講師：橘 俊哉 圓尾 圭史

助教：楠山 一樹

（関節）

主任教授：吉矢 晋一

准教授：福西 成男

助教：柏 薫里 中山 寛 諸岡 孝俊 奥野 真起子

(腫瘍)

教授：麩谷 博之

(手)

助教：高木 陽平 大井 雄紀

研修実施責任者

講師：圓尾 圭史